

「若年人材育成コース」ご提案の背景と理由

新入社員研修を終えて

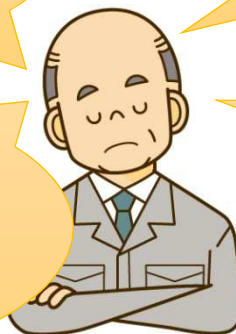
こんな声が

これでうちの会社
の社員教育は
終わり？



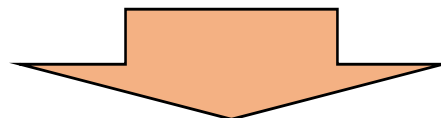
新入社員教育
の後の教育は
無いの？

新入社員だけで
なく、今いる若手も
教育したい



でも、コストはできる
だけ抑えたいなあ

何を教えたらいいの
かなあ？



キャリア形成促進助成金の「若年人材育成コース」

「若年人材育成コース」の概要

対象者

- 入社5年目以内、35歳未満の管理職・管理職候補者
(キャリア形成助成金の「若年人材育成コース」の助成対象条件)

研修回数

- 半日(4時間) × 5回
(上記助成金の指定時間数です)

費用

- 10万円/人＋税
(所定の出席で、約1/2～2/3の金額が助成金対象となります
また、マネジメント・サポート社が申請をご支援します)

カリキュラムの概要

		製造・技術部門の担当者	営業・間接部門の担当者
1 日目	1月15日(金) 13:00~17:00	部下指導のためのリーダーシップとその発揮方法 組織のまとめ方、管理職の自覚、モチベーションアップ、 コンプライアンス	
2 日目	1月29日(金) 13:00~17:00	工場における基本事項と 品質管理	営業力強化のための 情報・分析
3 日目	2月5日(金) 13:00~17:00	品質の測定と問題の 原因追究	製造業営業担当者の 商談力向上
4 日目	2月19日(金) 13:00~17:00	5S活動・標準化の狙い、原価管理・在庫管理の仕組み	
5 日目	2月26日(金) 13:00~17:00	生産部門と営業部門の相互協力体制の構築 今後の行動計画(受講生全員の今後の行動計画)発表と 共有・意見交換 研修全体の振り返り	

カリキュラムの特徴

体験学習

- 講義を聞くだけでなく、グループワークや個人ワークなどを取り入れて学習します。
- やってみて(DO)⇒結果を見て(LOOK)⇒考えて(THINK)⇒成長する(GROW)の体験学習のサイクルを回します。

現場につなげる

- 理論や原理を聞くだけでなく、自身の現場に置き換えたときにどのようなことが言えるのか、どのようなことができるのかを考えていただき、学習後の現場で活用できるようにします。

現場経験豊富な講師陣

- 講師は全員、現役のコンサルタントです。様々な現場に入って改善活動をしており、うわべの理論を語るのではなく、経験を加えた講義をします。

1日目(共通)「部下指導のためのリーダーシップとその発揮方法」

目的

職場のリーダーとしての自覚を持った上で、部下を適切に指導したり、意思疎通したりするために必要な知識とスキルを習得します。

カリキュラム

時間	内容	進め方
13:00~13:10	オリエンテーション	講義
13:10~14:10	ケーススタディ「部下が動いてくれない！A主任の悩み」 ＜組織を動かす3つの視点＞	ワーク 解説講義
14:10~14:20	休憩	
14:20~15:20	正しいリーダーシップの発揮の仕方を理解する 正しいリーダーシップの定義 リーダーシップとマネジメントの違いを理解する 信頼されるリーダーに求められる3つの要件と姿勢	講義 個人ワーク
15:20~15:30	休憩	
15:30~16:20	部下との信頼関係構築/適切な部門運営を実現する方法 ・コーチングの基本スキルを習得する ・対話力を高めるための傾聴力・質問力の強化	講義 グループワーク
16:20~16:45	明日への約束と発表	グループワーク
16:45~17:00	振り返りとまとめ	

期待される効果

- ・管理職に求められるリーダーシップのあるべき姿を学びます。
- ・コーチングの基本スキルを習得します。
- ・職場ですぐに実践できるコミュニケーション力を学びます。

2日目(製造・技術)「工場における基本事項と品質管理」

目的

QCDという3重要要素の相互関係および品質問題の幅広い影響を議論し、品質の重みを学習します。

カリキュラム

時間	内容	進め方
13:00~13:30	製造業における工場の位置づけと基本重要事項の確認	講義
13:30~14:30	品質問題の悪影響 (最近発覚した品質問題について)	グループワーク、 講義
14:30~14:40	休憩	
14:40~15:30	品質管理とは？(自社の品質管理システム、品質管理の目指すところ)	グループワーク、 講義
15:30~16:00	新規品立ち上げ管理のポイント	講義
16:00~16:45	ポカよけ活動(ポカミスの本質、対策の着眼点)	講義、グループ ワーク
16:45~17:00	振り返りとまとめ	

期待される効果

- ・日頃の生産作業における品質管理がルール通り確実に実施されている。
- ・定常的な品質管理の重要性を認識し、よりの確な対応ができるようになる。特にイーゼーミスの原因、対策に関する理解が深まり、普段の作業管理へ反映できる。
- ・品質管理が一連の業務のチェーン(連鎖)であることを認識し、仕事を完結させるまでの拡大された視点を持ち、意欲的に仕事に取り組める。

2日目(営業)「営業力強化のための情報・分析」

目的

会社の中で不可欠である営業の役割を理解し、現場と営業との情報の伝え方、伝わり方を体験することで組織の活性化を図ります。

カリキュラム

時間	内容	進め方
13:00～13:50	売上の分析手法	講義:講師
13:50～14:00	休憩	
14:00～14:50	営業と情報力	講義:講師
14:50～15:00	休憩	
15:00～16:00	体験:情報の伝え方・伝わり方 (実践:ビルダーゲーム)	グループ ゲーム形式
16:00～16:10	休憩	
16:10～17:00	まとめ 工場との付き合い方	グループ

期待される効果

- ・営業社員として売上を上げるとはどういうことか?売上を分解して学びます。
- ・製造業ではよくあるセクショナリズムになりがちな製造現場と営業の関係を理解し、営業への役割認識を促進することにより組織の活性化を図ります。
- ・営業社員としての意識・自身が会社の営業を支える意識の向上を図ります。
- ・思っているほど情報が、伝わっていない体験を通し、伝える力を身につけます。

3日目(製造・技術)「品質の測定と問題の原因追究」

目的

実習を通じて品質の測定誤差、品質のバラツキを体験学習し、その結果から課題を創出し、現状把握から課題設定までのプロセスを学習します。

カリキュラム

時間	内容	進め方
13:00～14:00	品質の測定誤差、品質のバラツキ (品質の測定方法、測定誤差管理、品質のバラツキ把握方法)	講義
14:00～15:00	品質測定の実習(その1) (ノギスを使用し、製品の長さを実測し、そのバラツキをヒストグラムにまとめる)	実習、 グループワーク
15:00～15:10	休憩	
15:10～15:45	品質測定実習(その2) (結果のまとめ、問題の発見、および発表)	グループワーク、 講義
15:45～16:45	品質問題の原因追究の基本、手法と対策の考え方 (5M, 3現主義、原理原則、QCストーリー)	講義、グループ ワーク
16:45～17:00	振り返りとまとめ	

期待される効果

- ・実体験により測定誤差、品質のバラツキを実感し、品質測定結果(現状把握結果)より問題形成能力を涵養する基礎づくりができる。
- ・問題解決の前提である真の原因追究の考え方、手法を学習し、自職場での品質問題解決に効率の良い仕組みを取り入れることができる。

3日目(営業)「製造業営業担当者の商談力向上研修」

目的

顧客のニーズを引き出す「4つの質問」、顧客に購買を決定させる「3つの説明」を中心に学習することで製造業の営業パーソンの商談力を向上させることを狙いとしています。

カリキュラム

時間	内容	進め方
13:00~14:10	商談の4段階 SPIN理論 顧客のニーズを引き出す4つの質問 (状況質問、問題質問、示唆質問、解決質問)	講義 個人ワーク
14:10~14:20	休憩	
14:20~15:20	SPIN理論 購買を決定させる3つの説明 (特徴・機能・利点) 顧客にとっての利点=便益の抽出	講義 個人ワーク グループワーク
15:20~15:30	休憩	
15:30~16:45	説得・交渉のテクニック (説得の3要素、交渉の基本戦略、コンフリクト(対立)解消のポイント)	講義 演習
16:45~17:00	振り返りとまとめ	

期待される効果

- ・顧客ごとの商談成立に向けた商談ストーリーを作成することで、御用聞き営業から提案型営業へ転換することを身につけます。
- ・顧客とウィン・ウィンの関係を構築できる説得・交渉テクニックを習得します。

4日目(共通)「5S活動・標準化、原価管理・在庫管理の仕組み

目的

製造・技術職であれ、営業・間接部門担当であれ、常に原価を念頭に置いた部下指導が求められます。その指導力に不可欠な5S活動の本質、標準化の目的、および原価計算の仕組みを理解します

カリキュラム

時間	内容	進め方
13:00～13:30	5S活動の狙い(組織力強化の観点から)	講義
13:30～15:00	標準化の重要性を識る(標準化の目的、ゲームによる効果の確認)	ゲーム、講義
15:00～15:10	休憩	
15:10～15:50	原価計算の仕組み-業務を財務数値から見る 原価を構成する要素、原価の集計など原価計算の基礎的な仕組みを理解し、原価削減のポイントを知る。	講義
15:50～16:25	実習・工程管理の違いによる原価変動 主に仕掛かり品が原価に与える影響を、簡単な事例で計算して、原価管理の勘所を再確認する。	グループワーク
16:25～16:45	在庫管理の仕組み 原価計算の理解を基に、在庫管理のポイントを再確認する。	講義 グループワーク
16:45～17:00	振り返りとまとめ	

期待される効果

- ・5S活動の本質および標準化の重要性を認識することで業務における組織力強化推進のカナメとなる素養を身につけます。
- ・原価、在庫管理を原価計算の切り口で整理して部下指導で役立てるポイントを習得します。

5日目(共通)「生産部門と営業部門の相互協力体制の構築」

目的

製造部門と営業部門では、ものの見方や考え方、こだわる対象などが違うため、様々な行き違いが生じています。職場のリーダーとして適切に両部門を運営していくためのスキルをわかりやすく伝えます。

カリキュラム

時間	内容	進め方
13:00~13:10	オリエンテーション	講義
13:10~14:00	中小製造業の組織マネジメント 中小製造業で見られる部門間対立や連携不足の実例 組織間の対立(コンフリクト)の原因と解消方法	講義
14:00~14:10	休憩	
14:10~15:00	各部門の傾向と特徴(独自の風土や考え方)を理解する 製造部門の傾向と特徴、営業部門の傾向と特徴 一体感ある会社として成長するための課題の理解	講義 個人ワーク
15:00~15:10	休憩	
15:10~16:00	今後の行動計画の策定 リーダーとしての成長を実現するための自己啓発目標と アクションプランの策定	講義 グループワーク
16:00~16:45	明日への約束と発表	個人発表
16:45~17:00	振り返りとまとめ	

期待される効果

- ・組織における部門間対立を防止して、円滑に組織を運営する方法を学びます。
- ・製造部門と営業部門の風土や考え方の違いを学びます。
- ・リーダーとして成長するためアクションプランを策定します。

キャリア形成促進助成金の概要

企業が従業員に対して行う職業能力開発に関する計画（事業内職業能力開発計画および年間職業能力開発計画）に基づいて訓練などを行った事業主に対して、その経費と訓練期間中に支払った賃金の一部を助成される制度です

若年人材育成コース



採用後5年以内で、
35歳未満の若年労働者への訓練

助成額の一例

	訓練に要する経費	助成額
経費助成	OFF-JT受講料100,000円	$100,000 \times 1/2 = 50,000$
賃金助成	OFF-JT受講中の賃金 @1,500 × 20時間 = 30,000円	@800 × 20時間 = 16,000円
合計	130,000円	66,000円

キャリア形成助成金の基本要件

1. 雇用保険に加入している者
2. 助成金の受給資格認定申請書の提出の日の前日から起算して6カ月前の日から支給申請書の提出日までの間に、事業所において雇用する雇用保険被保険者を事業主都合により解雇等(退職勧奨を含む)をしたことがない事業主
3. 支給申請時点において、支給の対象となる対象労働者について、事業主都合による解雇をしていない事業主
4. 助成金の支給申請書の提出日から起算して過去3年の間に、緊急人材育成・就職支援基金事業による助成金等、および雇用保険二事業による助成金等を不正受給したことがない事業主
5. 助成金の支給申請日の属する年度の前々年度より前のいずれの保険年度の労働保険料を納入している事業主（支給決定の日までに、納入を行った事業主を含む）
6. 助成金の支給申請日の前日から起算して1年前の日から支給申請日の前日までの間に、労働関係法令違反のない事業主
7. 「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」に規定する接客業務受託営業を行っていない事業主

※なお、研修受講者の方が総訓練時間の8割以上受講しなければ、助成金の支給は受けられません。